

岩見沢市地球温暖化防止実行計画 区域施策編

2023年—2030年



ZERO
CARBON
CITY
IWAMIZAWA

ゼロカーボンシティ岩見沢

はじめに

近年、地球温暖化の進行に伴う気候変動により、これまで経験したことのないような猛暑や集中豪雨などによる自然災害が全国各地で発生しています。こうした状況は、市民生活にも多大な影響を及ぼしており、岩見沢市でも2019(令和元)年に1時間に約100mmを超える記録的短時間豪雨が発生するなど、極端な気象現象が観測されるようになりました。

国際社会では、2015(平成27)年にフランス・パリで開催された国連気候変動枠組条約締約国会議(COP21)において、2020(令和2)年以降の気候変動問題に関する新たな枠組みである「パリ協定」が採択され、日本では、2020(令和2)年10月に菅首相が臨時国会で2050年に温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言し、温暖化対策に積極的に取り組んでいくことにより、産業構造や社会経済に変革をもたらし、次なる大きな成長につながるグリーン成長戦略を打ち出しました。

岩見沢市においても、豊かな自然環境とその恵みを未来の世代に引き継いで行くために、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを令和5年2月27日に宣言しました。今後、脱炭素社会の実現に向けては、GX(グリーントランスフォーメーション)とDX(デジタルトランスフォーメーション)の両輪を推進することにより、「環境と経済の好循環」の実現を目指します。また、本計画に掲げる将来ビジョン「脱炭素で実現する快適なまち いわみざわ」の実現に向け、市民一人ひとりの温暖化に対する意識を高めるとともに、市民生活の質の向上に努めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、議論・助言をいただきました岩見沢市地球温暖化防止実行計画(区域施策編)策定協議会の委員の皆様をはじめ、多くの貴重なご意見をいただきました市民・事業者の皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

令和5年4月

岩見沢市長

松野 哲

目次

第1章 計画の基本的な考え方 3

- 1 計画策定の背景 4
- 2 計画策定の目的 7
- 3 計画の位置付けと役割 7
- 4 計画の対象とする温室効果ガス 8
- 5 計画の期間 8
- 6 計画の対象範囲 8

第2章 岩見沢市の概要 9

- 1 岩見沢市の概要 10
- 2 岩見沢市における再生可能エネルギーの導入状況 18
- 3 岩見沢市における再生可能エネルギーのポテンシャル 19
- 4 市民・事業者へのエネルギー使用実態調査 22

第3章 温室効果ガス排出量の現況推計および将来推計 27

- 1 温室効果ガス排出量の推計 28
- 2 温室効果ガス排出量推計の考え方 29
- 3 温室効果ガスの排出状況および将来推計 30

第4章 目標の考え方 37

- 1 脱炭素シナリオ 38
- 2 将来ビジョンと取組方針 43
- 3 本計画で目指す岩見沢市の将来ビジョンのイメージ 44

第5章 目標達成に向けた施策 47

- 1 施策の体系 48
- 2 取組方針に基づく基本施策 50
- 3 各取組による削減目標値と削減見込量 68
- 4 地域脱炭素化に向けた重点取組 70

第6章 計画の推進 73

- 1 推進体制 74
- 2 進行管理 75

第7章 資料編 77

- 1 用語集 78
- 2 計画策定の体制 84
- 3 岩見沢市の再生可能エネルギーのポテンシャル 85
- 4 アンケート調査票 107

・文中、右肩に「*」のある用語については、第7章資料編の用語集で解説をしています。